我々の闘いとしての自主ゼミ運動

Non Sect

経営学部自主ゼミ実行委員会企画

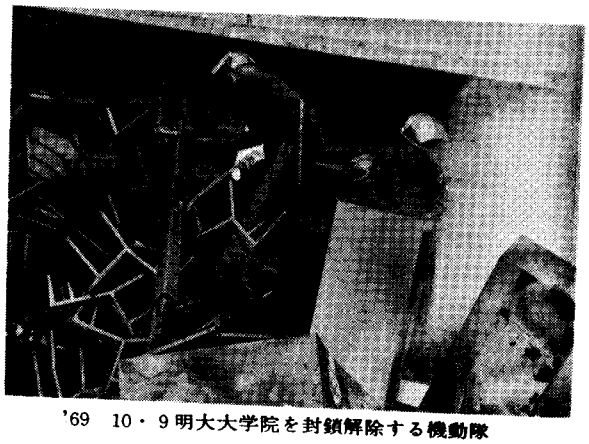
講演

「反権力闘争と自主講座運動」

講師：最首　悟

5月31日　AM11：30

2番教室



'69　10・9明大大学院を封鎖解除する機動隊

60年代後半から70年代にかけての全共闘運動は，全学連運動の限界を打ち破り，全員加盟制ポツダム自治会の持つ擬制性を止揚し，質的転換を図るものとしてあった。大状況からの外向的な闘いという従来の運動のパターンは小状況からの内向的な運動の闘いとして展開して行った。その闘いは必然的に自己の現在的な生活空間である大学，さらに学問的な存立基盤に対する不断の問いかけを生じさせた。とりわけ東大における青医連，都市工等の助手院生の提起した問題は，科学を担う主体のあり方であった。街頭でベトナム反戦闘争を闘いつつ，大学に戻るやその手でベトナム人民に敵対する研究を行なう自己欺瞞を露呈し，ラジカルに自己の学問的，職業的存立基盤を問いかえす運動であった。この問題提起は，個別東大における助手院生という特殊な位相のみの矛盾ではなく京大へ，明治へと継承された。京大闘争は帝大解体ーブルジョア学問体系破壊の物質的基盤として反大学運動を創出した。明大においては生田における評議会運動として表現された。バリケードへの人集め的機関か，活動家のイデオロギー構築の場としてしか存在し得なかった従来の自主講座運動は，持続性を持たない短期的なものであった。しかしながらこの様な日大・京大闘争の反大学運動の限界性を認識する中で，その質を自主ゼミ運動として展開すべく経営学部自主ゼミ実行委員会は活動して来た。学生としての存在は，将来的に労働者に対し管理者・支配者として登場することを大学と言う場により制度的に保証されている。しかしながら学生存在の持つ矛盾に自己のメスを加えるのではなく，政治課題を語ることは困難な課題からの逃避でしかないであろう。その課題を証ることなく組織化を急ぐあまり過去の経営学部闘争委員会は崩壊して行った。経営学部は一貫して産業界の要請に対応し，合理化を支えるイデオロギーを経営管理，労務管理等の授業形態をもって生産して来た。自主ゼミ運動を展開する中でその犯罪性を暴露し，闘争委員会再建を計って行かねばならない。これこそ自主ゼミ実行委員会の原点における闘いであり，その使命と考える。自主ゼミ運動を全明に拡大せよ!!

小岩井 純濃 牛乳 まきば

小岩井農牧株式会社